

1. 法人の概要

(1) 教育理念

社会に必要とされる人材を育てる学園、
そして学生が明るく楽しく学ぶ学園を目指します

(2) 生活理念

「低賞感微」(低姿勢、賞賛、感謝、微笑)

(3) 学園の主な沿革

昭和 22 年 5 月	「文化洋裁教室」を設立
昭和 24 年 11 月	各種学校として、東京都認可校となる
昭和 34 年	きもの学院設立
昭和 40 年 10 月	学校法人織田学園認可
昭和 43 年 4 月	「織田調理師専門学校」設立認可、厚生大臣の指定校となる
昭和 51 年 4 月	「おだ学園幼稚園」を設立開園 寄附行為を変更、準学校法人から学校法人に変更 9 月学校教育法の一部改正により、「織田文化服装学院」を「織田服飾デザイン専門学校」に、「織田きもの学院」を「織田きもの専門学校」と改称し、 それぞれが専門学校に昇格 織田調理師専門学校が新制専門学校として許可
昭和 56 年 4 月	「織田栄養専門学校」設立許可、厚生大臣の指定校となる
昭和 63 年	織田服飾デザイン専門学校を「織田デザイン専門学校」に改称
平成 10 年 4 月	「織田製菓専門学校」「織田福祉専門学校」開校
平成 14 年 4 月	東京都認証保育所「おだっこ園」開園
平成 20 年 4 月	織田デザイン専門学校を「織田ファッション専門学校」に改称
平成 22 年 4 月	幼稚園・保育園を多摩市落合に移転し、「おだ認定こども園(幼保連携型認定こども園)」を開設
平成 22 年 7 月	織田福祉専門学校を閉校
令和 3 年	「おだ学園保育園」開園
令和 4 年	織田栄養専門学校を閉校
令和 5 年	「織田学園中野高等専修学校」開校

(4) 設置する学校・学科等 (2024 年度)

(単位：人)

学 校	学科・専攻等	収容定員	在学者数
織田ファッション専門学校	ファッションデザイン科	70	35
	ファッションテクニカル科	70	22
	ファッションデザイン専攻科	25	10
	ファッションテクニカル専攻科	25	16
	スタイリスト科	70	36
	ファッションビジネス科	70	53
	マーチャンダイジング専攻科	20	7
織田きもの専門学校	きもの科	50	35
	きもの専攻科	15	9
織田調理師専門学校	調理師科	60	20
	調理技術経営科	80	52
	調理製菓製パン科	60	39
織田製菓専門学校	製菓 2 年制	80	39
	製菓 1 年制	40	8
織田学園中野高等専修学校	調理師・製菓科	240	101
おだ認定こども園	1 号認定児 (満 3 歳児から 5 歳児)	110	85
	2 号認定児 (3 歳児から 5 歳児)	90	90
	3 号認定児 (0 歳から 2 歳児)	43	41
おだ学園保育園	0 歳児	6	6
	1 歳児	10	9
	2 歳児	11	11
	3 歳児	11	9
	4 歳児	11	10
	5 歳児	11	13
合 計		1278	756

2. 事業の概要

当該年度の事業項目	事業の概要
織田ファッション専門学校	教育面では長年継続している企業連携企画の形を変え、より学生満足度が高い企画になった。その他にも業界や学生のニーズに合わせて柔軟にカリキュラム編成を行った。 就職面では、就職講座を定期的に行い就職に対する意識を高め、担任が面接を行い個人の要望に沿って指導やアドバイスをを行っている。職種により状況が大きく異なるが、技術系の職種は前年度の実績を下回った。 学生募集の成果は前年度を下回った。理由の一つとして、大学入学のハードルが下がったことからそちらに流れた可能性がある。 ホームページやSNSを活用し本校の魅力やリアルな学校生活を積極的に発信している。
織田きもの専門学校	教育面では、きもの関連企業とのコラボレーションを実施し、実践的な教育機会を提供した。今年度もきものサローネや東京キモノショーでは学生作品展示に参加した。 就職面では1年次より合同の就職ガイダンスを行いながら、個々の目標や進路検討状況に応じた就職相談を常に受けている。就職状況は安定している。 学校行事はほぼ例年通り実施。しばらく実施を控えていた海外研修も行い、学生の満足度に繋がったと感じている。 学生募集は、大学進学検討者が増えたことで伸び悩んでいるが、地方出身者が徐々に回復してきている。 例年に引き続き、メンタルに問題を抱えている学生に対してサポートを行い、保護者との連携を図った。
織田調理師専門学校	教育面では、例年通り問題なく授業および学校行事を実施することができた。昨年度より、感染症蔓延前に実施していた校外実習を再開し実際に調理の現場に従事する事により技術の向上を図り、社会人として円滑な職場関係を体得できる時間を取り入れた。 就職面では進路変更希望者を除き、希望者全員が飲食業界に内定し就職した。業界は同じものの、業態は様々であり学生ひとりひとりの希望に合わせ適切なサポートを行った。 学生募集の成果は前年度を上回った。オープンキャンパス参加者が楽しく体験できるよう教職員、手伝い学生と良い雰囲気作りができた。参加者とは、なるべく個別で面談をする時間を作り進路相談にのった事の影響は大きいと考える。 今年度も食品ロスの削減やエネルギーの制約など、SDGs 推進について学校全体で取り組んだ。

織田製菓専門学校	教育面では、例年通り問題なく授業および学校行事を実施することができた。また、地域との連携を図り、レンガ坂商店会とアールブリュット展とのコラボ企画として学生のアイデアによるケーキ考案と販売を行った。 就職面では就職率 100%を達成した。学生一人ひとりとコミュニケーションをとり、個々の希望に合わせ適切なサポートを行った。学生個々の就職への意識も高く活動が積極的であったことも良い結果につながった要因といえる。 学生募集の成果は一昨年度、大きく減ったオープンキャンパス参加者数は回復せず、取り込み率も横ばいであったため入学者数を増やせなかった。分野全体としても志望者が増えていないことも考えられる。 食品ロスの削減やエネルギーの制約など、SDGs 推進については学校全体引き続き取り組んでいる。
織田学園中野高等専修学校	開設2年目となり、新入生 60 名を迎えて2学年 101 名でスタートした。 教育面では、調理師教育とクラーク記念国際高等学校との連携による高校教育を併修するカリキュラムを順調に実施することができた。後期からは2年生を対象に進路指導を開始した。 また、設備は学年の進行に合わせて順次拡充しており、今年度は3階調理実習室を整備し使用開始した。 新入生は中学校との違いから当初は戸惑いも見られるが、2年生とも融和し和やかな雰囲気为学校となっている。 教職員は生徒募集にも取り組み、中学校訪問をはじめとして全員参加で成果を上げている。都内を中心に中学校側にも徐々に知名度を上げている手ごたえを感じる。
おだ認定こども園	新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更となり、以前のように保護者や地域の人との関わりを再開することができた。そのことによって、園で活動している園児の姿を見てこどもの成長を共に喜び共感することができた。 またESD教育の一環として5歳児がダンボールコンポストのプロジェクトを行いゴミのリサイクルを体験した。地域との連携ができ多様な人との関わりから学びが多い実践となった。 園児が減少している中だが、地域に開かれ、地域から支持される質の高い教育を提供できる園として他園との差別化を図りたい。そのためにも保育者の質の向上を目指すと共に職員が安定しやりがいを持って働ける組織としてさらなる前進を図りたい。

おだ学園保育園	教育・保育の中で、アートやリトミック、スイミング等専門性を持った外部の人たちと関わりを持ちながら地域に根ざした園運営を実施している。 職員は乳児保育、幼児教育、保護者支援、保健衛生、食育・アレルギー等研修の機会を持ち、資質向上に引き続き努めていく。 課題としては多国籍家族と多様化している家庭が増えていることに伴い丁寧な保育と保護者支援が持続できるよう職員体制の対応が必須となってくることにある。 また、今後もSDG sを含め2030well-being（身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念としての「幸せ」）持続可能な社会を目指した企画の実践を盛り込んでいく。

以上